

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第4号（普通期水稻）

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7
6	4	22.4	26.3	26.1	31.7	19.6	21.6	54.5	4.5	20.6	41.4
	5	23.0	25.2	26.6	28.1	20.4	23.0	65.1	113.5	17.8	1.1
	6	23.9	26.4	27.3	32.5	21.3	22.3	73.6	0.0	14.8	58.2
7	1	24.7	28.4	28.0	34.3	22.2	24.4	87.3	0.0	15.2	59.3
	2	25.3	27.8	28.7	33.2	22.8	24.6	92.9	0.0	19.9	45.1
	3	26.0	26.4	29.6	30.8	23.2	23.8	74.1	50.5	26.4	28.9
	4	26.6	27.7	30.5	33.0	23.6	24.7	45.1	55.5	31.7	32.3

7月は降雨もあり最高気温は平年並みとなったが、4半旬からは晴天が続いており、気温が高く猛暑となっている、今後も高温乾燥状態が続くと見込まれるので水管理等に注意する。

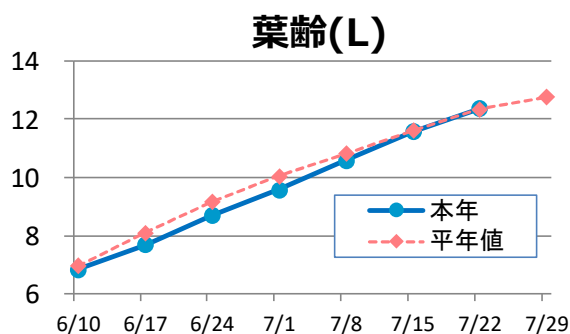
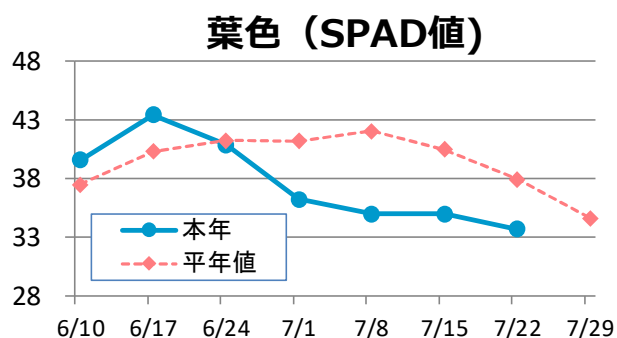
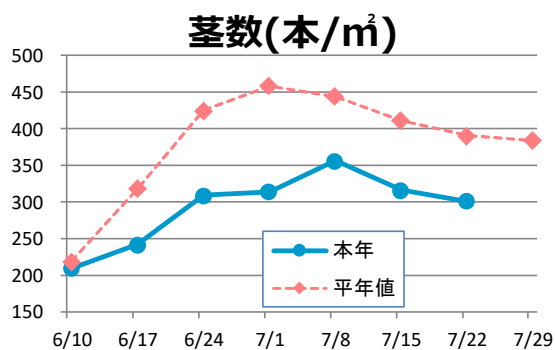
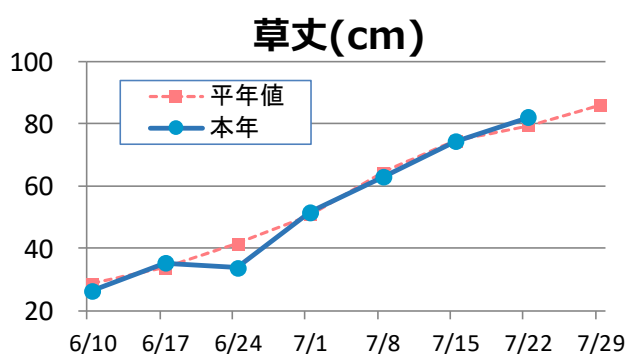
2. 生育状況（調査日：7月22日）

項目 品種 (設置場所)	年 次	草 丈 cm	茎 数 本／m ²	主 稈 出葉数 L	葉 色 SPAD	概 要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/10 移植 標高 650m	本年値	82.0	302	12.4	33.7	・草丈はやや高い ・茎数は少ない ・出葉は平年並み ・葉色は薄い
	平年値	79.3	391	12.3	37.9	
	平年比	103	77	0.1	-4.2	

項目 品種 設置場所	年次	草丈 cm	茎数 本／㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 唐津市相知町 伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	72.8	397	10.7	38.7	・草丈は高い ・茎数は多い ・出葉は平年並み ・葉色はやや薄い
	平年値	65.1	322	10.5	39.6	
	平年比	112	123	+0.2	-0.9	
項目 品種 設置場所	年次	草丈 cm	茎数 本／㎡	主 幹 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 唐津市相知町 相知 6/20 移植	本年値	60.8	560	11.3	40.2	・草丈は高い ・茎数は多い ・出葉は平年並み ・葉色は薄い
	平年値	56.0	493	11.2	42.5	
	平年比	109	114	+0.1	-2.3	

(1) 山間早植え

作況圃の「コシヒカリ」は生育期間前半が低温で経過したため生育は抑制気味であった。7月に入り生育はやや回復し草丈、出葉数は平年並みとなったが、茎数は少ない状態であと1週間程で出穂期を迎える。作況圃では、22日の調査ではウンカ類、いもち病は確認されなかった。



(2) 普通期水稻

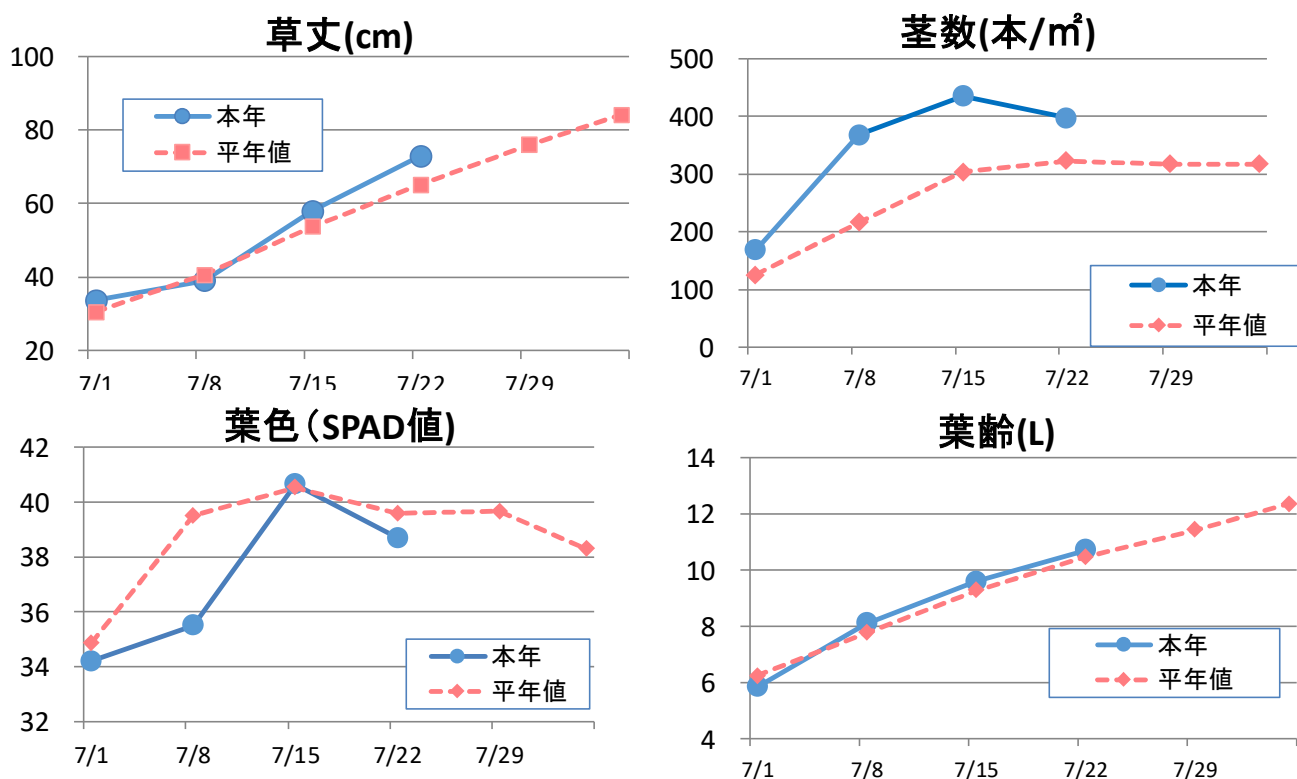
作況圖の「夢しずく」、「さがびより」とも移植後は降雨、曇天が続き生育は停滞したが、梅雨明け後の好天により生育は回復して茎数が急速に増加した。葉齢は平年並みである。

「夢しずく」については7月23日に幼穂1mmが確認され、幼穂形成期に入っている。また、「さがびより」について、梅雨明け後急速に増加した茎数は7月22日時点で減少に転じて最高分げつ期を既に経過している。最高分げつ期が平年より1週間程度早まっている。

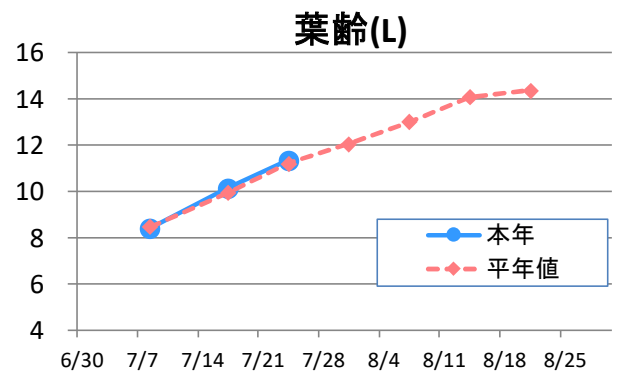
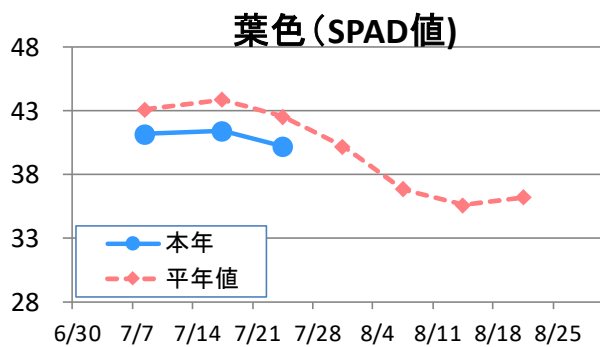
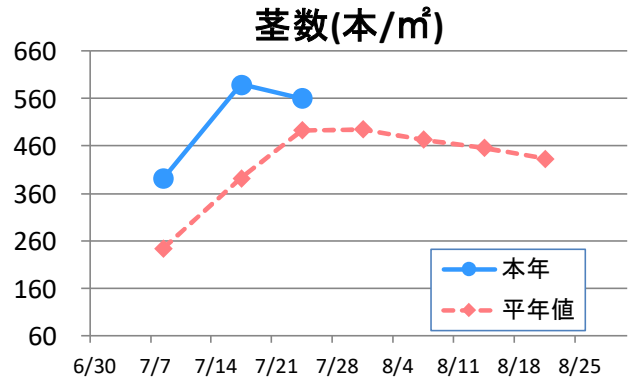
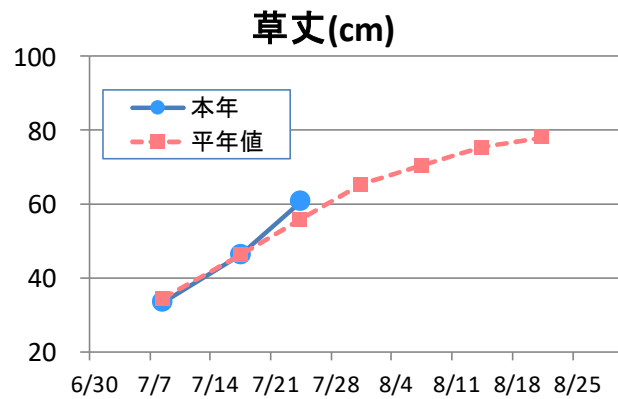
また、一般圃場では移植時期や水管理の違いで生育に差が見られており、スクミリンゴガイによる食害や、砂壌土地帯を中心に除草剤による薬害や、逆に除草剤の効果が十分でなかった圃場が見られる。

「夢しずく」作況圖では7月23日に孵化直後のウンカ類幼虫が確認された。いもち病など病害の発生は見られない。

◎「夢しずく」作況圖の生育グラフ(相知町伊岐佐)



「さがびより」作況圖の生育グラフ(相知町相知)



3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

- ・コシヒカリの現在の生育ステージは減数分裂終期となっており、1週間程度で出穂期を迎える。
- ・幼穂形成期から穂揃期はイネが最も水を求める時期であるため、浅水管理とする。

②病害虫・雑草管理

- ・今年はトビイロウンカの飛来は少ないが、今後の発生状況に注意し、ほ場の発生状況を確認して適期防除に努める。防除を行う場合には湛水をするとともに、株元まで薬剤が十分にかかるように散布する。
- ・「いもち病」の病斑が見られる場合は、地域の栽培暦に従って速やかに防除を行う。特に上位葉に病斑がある場合は穂いもちが懸念されるので出穂前の防除を行う。
- ・特別栽培表示制度を申請した産地では、農薬成分カウント数に注意する。
- ・出穂直前に畦畔除草を行うとカメムシの圃場内への移動助長するため、畦畔除草は出穂10日前までに行うこと。出穂10日前までに除草できなかった場合は、畦畔除草は黄熟期以降とする。

(2) 普通期水稻

①栽培管理

- ・6月中旬に移植された「夢しずく」は幼穂形成期に入るので、穂肥診断基準に基づいて穂肥を施用する。
- ・穂肥施用後、幼穂形成期はイネが最も水を求める時期であるため、浅水管理とする。
- ・「さがびより」については最高分げつ期を経過しているので、有効茎数が1株当たり20本程度確保できた圃場は例年より早く中干に入る。
- ・今後も高温が予想され「さがびより」については幼穂形成期まで時間があるので強い中干しを行うと根いたみなどにより、生育が凋落する恐れがある。そこで、中干しについては地固め行う程度として、中干し後は間断灌水により根の活性を高めて稲体の維持に努める。

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ

②夢しずく穂肥診断

- ・夢しずくは7月中旬以降穂肥施用の時期となってくる。
- ・幼穂長が1mm確認出来たら下記の穂肥診断基準に基づいて穂肥を施用する。
- ・今年は高温、多日照が予測されている、登熟期間の栄養不足を防ぐためにも穂肥診断に基づき可能な圃場では穂肥を施用する。

1)「夢しずく」の穂肥診断基準(県基準)

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		施用量
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
73cm 以下	3.0 以下	34 以下	20-22	1mm	3.0
	<u>3.0-3.5</u>	<u>34-38</u>	<u>18-20</u>	<u>2mm</u>	<u>3.0</u>
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.5-2.0
	3.8 以上	40 以上	施用の場合止葉抽出終了まで		1.0 以下
73-79cm	3.0-3.5	34-38	18-20	2mm	1.5-2.0
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.0
	3.8 以上	40 以上	施用しない		0.0
80cm 以上	原則として施用しない				0.0

2) 夢しなく出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)	
-27	0.1	← 幼穂形成期
-23～ -20	0.3～ 0.8	
-20～ -18	1～ 2	← 穂肥施用時期の目安
-18～ -16	3～ 5	
-15～ -12	5～ 80	
-12～ -10	80～ 100	
-7～ 0	100～ 200	

③病虫害・雑草管理

- ・いもち病の発生は今のところ確認していないが、置き苗はいもち病の発生源となるため早急に撤去する。
- ・今年はトビイロウンカの飛来は少ないが、今後の発生状況に注意し、ほ場の発生状況を確認して適期防除に努める。防除を行う場合には湛水をするとともに、株元まで薬剤が十分にかかるように散布する。
- ・今年は移植後に長雨となり初期除草剤の施用が遅れて、「ホタルイ、コナギ、ノビエ類」等後発雑草が多い圃場が見受けられる。そのような圃場では、中後期除草剤の施用が遅れないようにする。
- ・特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。
- ・出穂直前に畦畔除草を行うとカメムシの圃場内への移動助長するため、畦畔除草は出穂 10 日前までに行うこと。

※イネカメムシについて上場のコシヒカリ圃場で1頭確認され、農業技術防除センターが病虫害対策資料が発出されている。(別添) 振興センターの調査でも唐津市大良のコシヒカリ圃場で1頭確認した。(7月16日)

発生頭数は少ないが今後の発生状況に注意して斑点米カメムシ防除を徹底する。

イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況

(佐賀県農業技術防除センター情報から)

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2025年)

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ					
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県					長崎県
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	1		0			0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	9日	0	0	0	0	0	0	1	0		0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	2	4	0		0			0	1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0
	12日	0	0	0	0	0	1	1	0						0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	14日	0	0	0	0	1	0	1	0						3
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	16日	0	2	0	0	3	9	0	0	0	0	0		1	7
	17日	0	0	0	0	0	4	0	0		0				1
	18日	0	0	0	0	3	4	0	4			0			0
	19日	0	0	0	0	0	2	0	0						6
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0		1		0	1	0
	21日	0	0	0	0	1	1	0	0	0		0			0
	22日	0	1	0	0	0	26	0	1			0			0
	23日	0	2	0	0	2	126	2	0		0		0	0	2
	24日	0	0		0	2	139		0						1
	25日	0	0		0	2	12		0						0
	26日	0	0		0	1	8		0	0		2		1	
	27日	0	0			0	7				0		0		
	28日	0	0			0	1								
	29日	0				0									
	30日	0				0									

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

6月29～30日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

トビイロウンカ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報から）

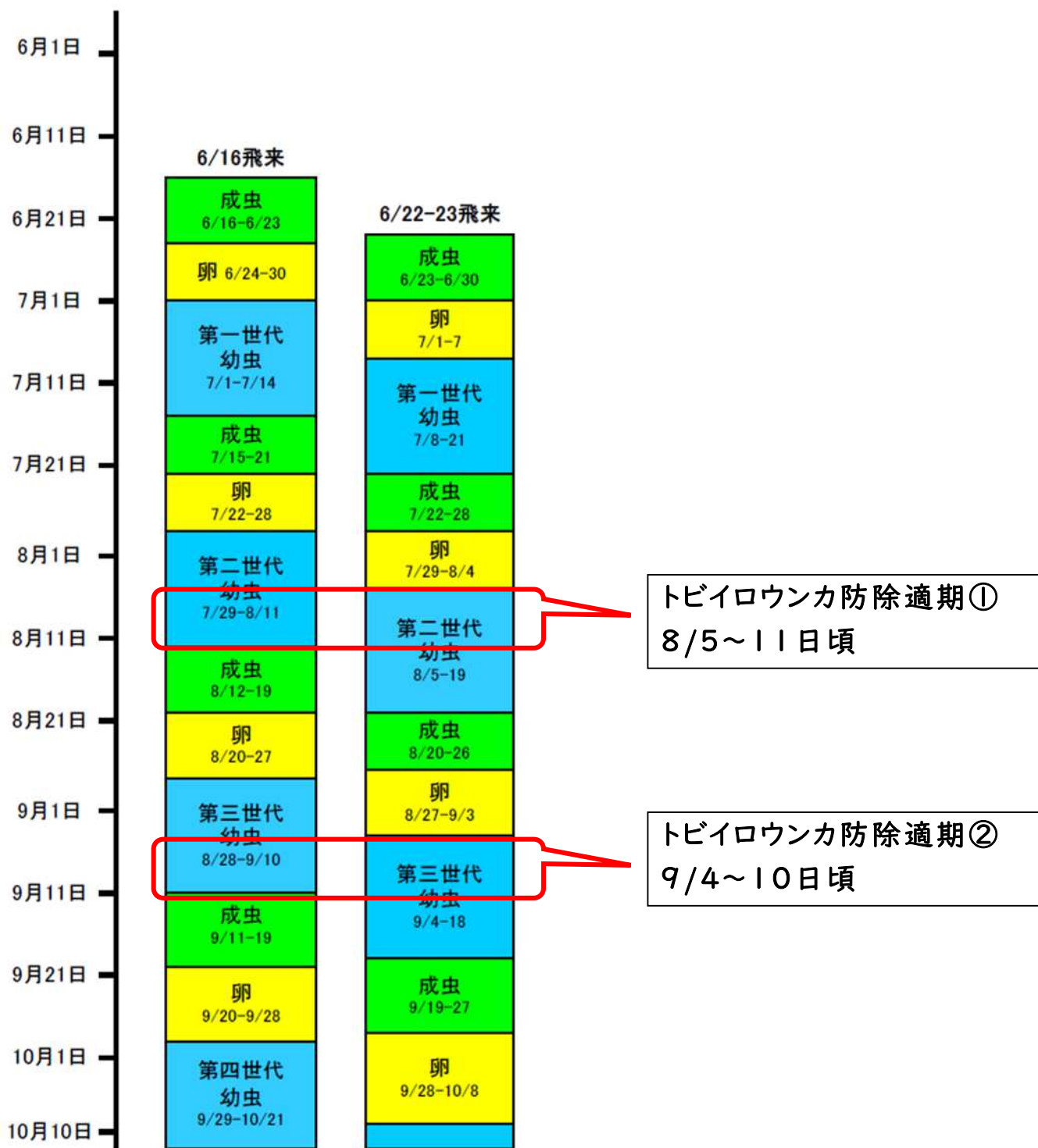


図 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2025年7月18日作成）

1. 6月16日頃、6月22日～23日（図では6月23日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月18日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

コブノメイガ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報から）

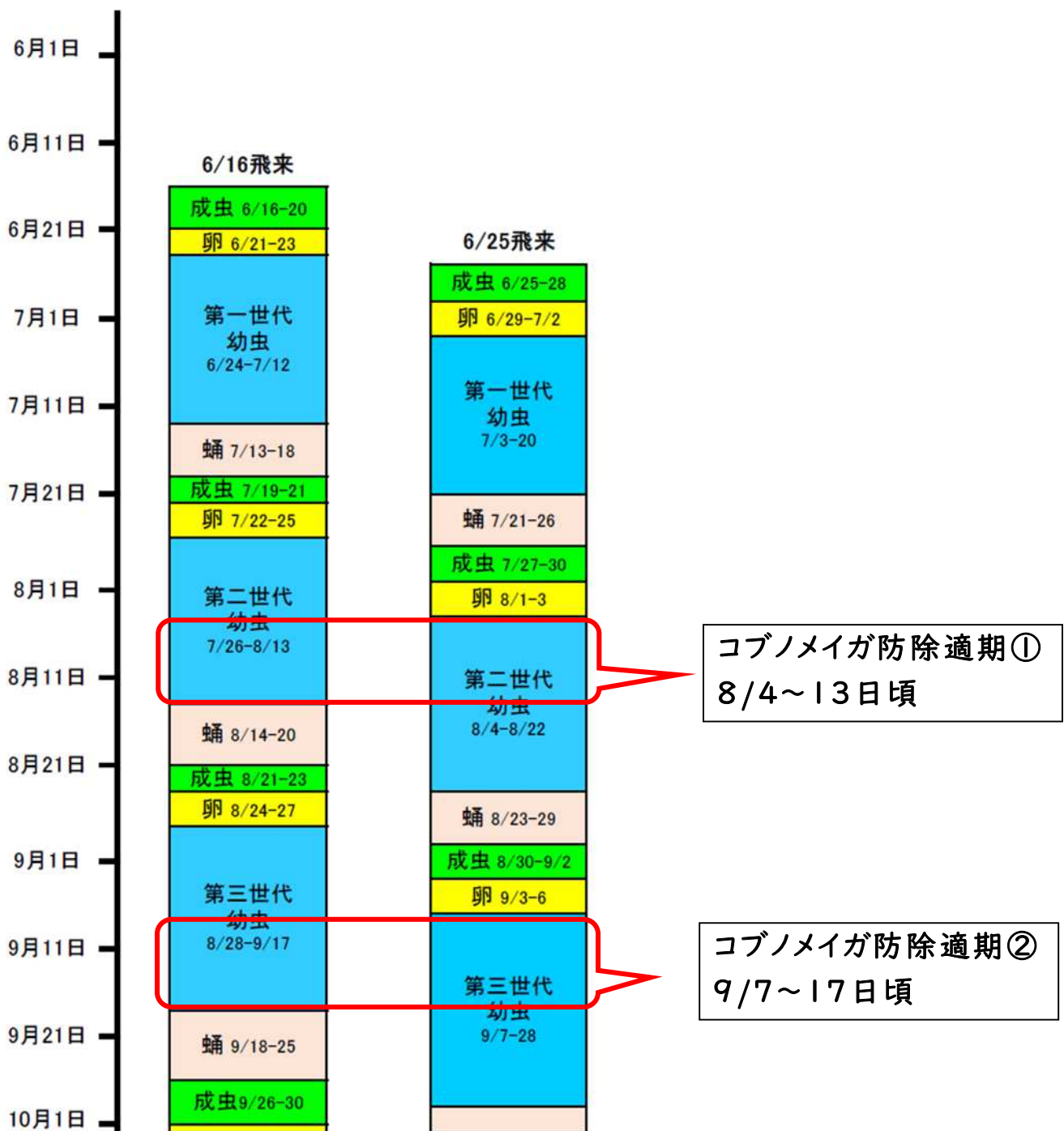


図 コブノメイガ各世代の発生予測（第2版、2025年7月18日作成）

1. 6月16日頃、6月24日～25日頃（図では25日）の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月18日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 13℃、発育上限温度 28.5℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

イネカメムシの県内における発生状況について

イネカメムシは、近年全国的に被害が拡大している斑点米カメムシ類の一種で、昨年本県において広く分布していることを確認しています（写真1）。本種は、水稻の出穂始めに籾を吸汁して不稔にし、大きな減収被害を生じさせるなど、他の斑点米カメムシ類とは異なる特徴があり、適期の本田防除が重要です。本年7月上旬の早期水稻の調査において、本種の発生を確認したことから、県内での被害の発生が懸念されます。

ついては、本種による被害の発生するおそれが比較的高いと考えられる山間、山麓部地域においては、本種の発生に留意するとともに、下記を参考に防除対策を徹底するよう、生産者への指導をお願いします。

記

1. イネカメムシの発生状況

令和7年7月10日に実施した県内3地点の早期水稻18圃場での捕虫網によるすくい取り調査では、イネカメムシ成虫が1圃場で認められた（表1）。また、昨年8月上旬の調査では同3地点全てで本種の発生を認めている。

2. イネカメムシによる被害の特徴

本種は、出穂直後から加害することで不稔籾を生じさせ、被害が甚だしいと大きな減収を引き起こす。また、穂揃期以降は、基部斑点米を生じさせ、等級格下げの原因となる。

3. 防除対策

- 1) 圃場内をよく観察し、本種の早期発見に努める。特に、周辺より出穂が極端に早い、又は遅い圃場では、本種の飛来が集中するため、発生状況を注意深く観察する。
- 2) 出穂前に本種の発生を認めた圃場では、通常 of 斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の薬剤散布を実施する。
- 3) 出穂後に本種の発生を認めた圃場では、発生状況に応じて通常 of 斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除を行う。

写真1 イネカメムシ成虫【A】及び幼虫【B】、基部斑点米【C】

成虫の体長は13mm前後



表1 斑点米カメムシ類の水田におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数（調査日：令和7年7月10日）														
調査 地点	品種	生育 ステージ	イネカメムシ		クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ類		アカシジ*カスミカメ		アカヒゲ*ホソミド*リ カスミカメ	ミナミアオカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	成虫
A-1	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-2	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-3	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-4	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-5	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0
B-1	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-2	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
B-3	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-4	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-5	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
B-6	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-7	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-1	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
C-2	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-3	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-4	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-5	コシヒカリ	出穂期	1	0	1	0	0	0	1	0	5	0	0	2
C-6	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0

水稻の生育ステージ：出穂前～出穂期

令和7年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

